

I 研究の概要

1 研究主題

社会に開かれた教育課程編成の在り方

～地域と目標を共有し、地域と関わり合う学習を通して～（2か年計画）

2 研究主題の設定理由

本校では平成27・28年度の2年間、特別支援教育に関する実践研究充実事業として、特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究に取り組んだ。2年間の研究を通し、学校教育目標、学部目標や重点、分掌部の重点が日々の授業と全てつながっていることの理解が進んだ。また、教育課程の全体構造図や教育課程編成の流れなどが見える化したことで、学校の教育目標やそれを具体化した学部の目標に基づく指導計画の立案や日々の実践が、具体的にどのようにつながっているのか職員間で共通理解できるようになった。教育課程編成では、授業における年間を通したPDCAサイクルと単元ごとのPDCAサイクルの2段階のサイクルを継続的に行っていくことで改善が図られる仕組みを整えることができた。

2年間の実践において、地域とのつながりをもちながら実践に取り組んできたことで、各学部・寄宿舎ともに児童生徒に様々な変容が見られるようになったが、以下の点については課題が残った。

○教育課程編成の仕組みが整い、教務部や研究部の部員を中心に、いつ、どんなことを行うのかが分かってきた。しかし、年間指導計画や支援計画等立案時における留意点を全職員が理解する必要がある。

○児童生徒の目指す姿を確認し、地域の資源を活用してどんな力を身に付けてほしいかを検討して地域学習を実践してきた。しかし、どんなことを目標として地域学習を展開しているのかを地域の人たちに十分伝えていなかったり、地域の人たちが抱いているニーズを共有したりすることは不足している。

○地域の人たちのニーズを探ったり、目標を共有したりすることや、地域の人たちからの評価を得るための地域アンケートは改善が必要である。

○校内において、様々な人と相互に関わる姿は広がりがみられるようになってきた。しかし、地域の人たちとのやり取りがやや一方的であったり、受身的であったりする状況があるため、校内外問わず、相互に関わりを広げていけるように実践していく必要がある。

これらの中でも、特に次の2点の課題を解決していくことで、児童生徒の自立と社会参加の基礎となる力を養うことができると考える。

○地域の資源を活用する実践を通し、地域の人たちと地域の人たちが抱いているニーズや交流する際の目標などを共有していくこと

○日々の授業や地域の資源を活用して行う実践を通し、様々な人と関わり合うために必要な児童の資質・能力を向上させていくこと

これらのことを解決していくことで、社会に開かれた教育課程を構築し、児童生徒の自立と社会参加をする力を高めていけるのではないかと考え、本主題を設定した。

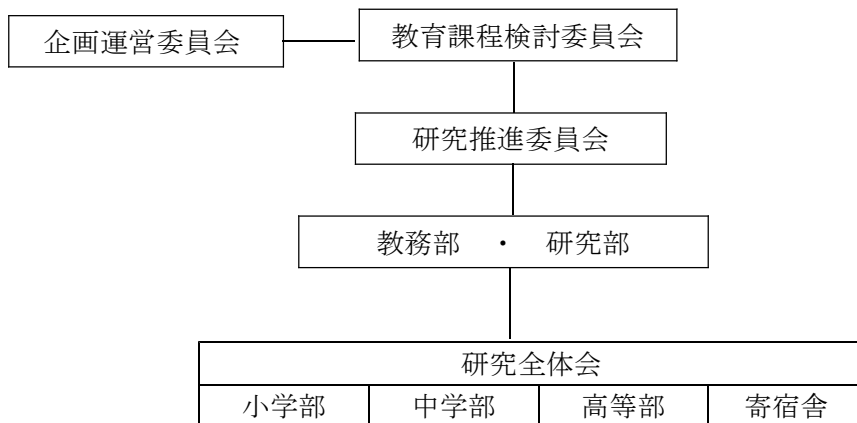
(研究の目的)

- ① 教育課程編成の仕組みを生かし、具体的な改善を図りながら学習活動を展開していくことで、地域の資源を活用し、地域と関わり合う学習を深める。
- ② 学校教育目標や学部目標などとの接続を意識した授業づくりの実践を通し、児童生徒が様々な人と関わりながら学習する際の資質・能力を高める。

3 研究仮説

本校の教育課程編成の仕組みに則り、学校や学部の目標及び重点に基づいて各教科等の指導内容を相互に関連させた計画を立案し実施する。その際、地域の人的、物的資源を活用するとともに、学習の目的や学習を通して目指す児童生徒の姿を地域の人たちと共有・連携しながら指導内容を設定し、日々の授業の改善を積み重ねる。地域の人たちからいただいた意見や評価を日々の学習に反映させ、教育課程を評価・改善していくことで、児童生徒の自立と社会参加するための基礎力を高めるとともに、社会に開かれた教育課程編成を実現していくことができるであろう。

4 研究組織



教育課程検討委員会：校長・教頭・学部主事・主任寄宿舎指導員・分掌主任・各学部研究リーダー

研究推進委員会：校長・教頭・学部主事・教育課程コーディネーター※
研究部・寄宿舎研究担当

※教育課程コーディネーター：各学部において、教育計画の立案や実施に当たって、学校目標や学部目標とのつながりを学級担任等に助言したり、調整したりする。

5 研究内容・方法

(1) 教育課程編成の仕組みに基づいた実践の定着

- ①教育課程編成の全体構造を全職員で共有する
- ②年間指導計画や支援計画等立案時の留意点などを全職員が理解する

(2) 地域を活用した学習を継続し、深める

① 自立と社会参加につながる魅力的で特色ある「地域と関わる学習」の創造

- ア 地域と目標を共有する
- イ 各学部の地域と関わる学習のキーワードの設定と地域と関わる学習一覧の作成
 ≪各学部の地域と関わる学習のキーワード≫

小学部	「地域の人と出会おう、触れ合おう」 ～地域で共に活動する人を増やす～
中学部	「地域に元気を届けよう」 ～地域の人と共に喜び合える活動を広げる～
高等部	「地域と共に担おう」 ～地域の一員として、自分たちでできることを生み出す～

(3) 教育課程の改善とより良い地域学習へつなげるアンケートの実施と分析

(4) 学部研究テーマに基づいた日々の授業づくり

- ① 年間計画と単元の検討
- ② 学習を通じて児童生徒に身に付けてほしい資質・能力を指導案に盛り込む
 ※特に身に付けてほしい資質・能力：人間関係形成能力とコミュニケーション能力
- ③ 「特別支援教育のミニマムスタンダード」の活用
- ④ 学部・寄宿舍研究テーマの設定
- ⑤ 児童生徒の事例を通して見る日々の授業と「地域と関わる学習」との関連
 - ア 事例対象の児童生徒を設定
 - イ 児童生徒について、指導内容、指導方法を定期的に検討
 - ウ 児童生徒の評価
- ⑥ 教育課程コーディネーターと授業者との協議

≪単元検討会の実施時期と検討内容≫

5月 (随時 見直し)	・年間を通じて行う中心的単元における一年後に 目指す姿について検討 ・各単元間のねらいと指導内容の検討	・共有シート ・単元構想シート
各単元 開始前	・単元の目標、小単元間の目標の検討 ・個別の目標と指導内容、支援の手立ての検討	・単元構想シート ・授業デザインチェックリスト
各単元 実施後	・児童生徒の変容の評価と指導内容、指導方法の 評価	・授業実践チェックリスト

(5) 教育課程コーディネーター活用の充実

- ① 日々の授業づくりにおいて、教育課程コーディネーターが学級担任と協議し、学校目標や学部目標とのつながり等を調整する

≪教育課程コーディネーターと学級担任との検討事項と検討内容≫

検討事項	実施時期	検討内容
個別の支援計画 個別の指導計画	4月 中間 年度末	・児童生徒のもつ良さや、それを生かした支援の手立て、中心的な課題がつながりをもって表記されているか。 ・日々の授業実践を通し、児童生徒がどのよう

		に変容したか。
年間指導計画 単元・題材計画	5月 随時	・各教科間の指導内容の関連付けはどうか。指導時数はどうか。 ・単元間、題材間のねらいのつながりはどうか。

② 教育課程コーディネーター会を実施し、役割や検討の視点を統一する。

II 研究計画と研究実践領域

1 研究計画

第 一 年 次	4月13日	研究推進委員会①	今年度の研究の計画や進め方について
	19日	研究全体会①	今年度の全校研究について
	20日	教育課程検討委員会①	教育課程の編成、実施から評価、改善の1年間の流れを確認、協議
	22日	学部研①	今年度の学部研究テーマについて
	5月19日	学部研②	研究全体会に向けて
	29日	研究全体会②	今年度の学部・寄宿舍研究について
	6月19日	学部研③	全校授業研究会に向けて
	7月11日	全校授業研究会①	学部研究に沿って授業提示(高等部)
	20日	教育課程コーディネーター会	各学部での情報共有
	24日	教育課程検討委員会②	全校授業研究会を通じた教育課程の評価・改善について
		学部研④	・全校授業研究会の振り返り ・学部研究の中間評価
	9月7日	教育課程検討委員会③	中間評価に関する学部・分掌連携について
	8日		
	13日	学部研⑤	全校授業研究会に向けて
		全校授業研究会②	学部研究に沿って授業提示(小学部)
	10月11日	全校授業研究会③	学部研究に沿って授業提示(中学部)
	18日	学部研⑥	全校授業研究会の振り返りと授業づくり
	11月8日	秋田県特別支援教育研究大会能代山本大会 (本校会場)	授業提示(小・中・高) 職域開拓推進事業の授業公開を兼ねる
	13日	学部研⑦	研究大会能代山本大会の振り返り
	12月18日	学部研⑧	今年度の学部研究・実践のまとめ
19日	教育課程コーディネーター会	次年度の教育課程編成に向けて	
1月10日	学部研⑨	事例研のまとめと紀要原稿作成	
25日	教育課程検討委員会④	年度末評価を中心に	
2月5日	教育課程検討委員会⑤	次年度の運営方針と教育課程編成について	
16日	学部研⑩	今年度のまとめと次年度取組について	
3月1日	研究全体会	今年度のまとめと次年度の取組について	
16日			

	教育課程検討委員会⑥	次年度の教育課程編成について	
○各学部の教育課程コーディネーターが学級担任と教育課程編成の進捗状況を協議し、調整			
<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画・個別の指導計画の立案と評価の協議 ・年間指導計画の協議 ・生活単元学習の単元・題材検討 ・授業研究会の授業づくりへの助言 			

2 本年度の研究実践領域

本年度は、本校の教育課程編成に則り、教育課程全体において児童生徒の目指す姿の具現化を図っていく。また、本年度は、秋田県より委嘱された特別支援学校職域開拓促進事業と相互に関連させながら授業実践及び評価・改善を行っていく。

全校授業研究会での授業提案は、小学部は生活単元学習で行い、中学部・高等部は作業学習で行っていく。